

業務用冷凍空調機器ユーザーによる

簡易点検の手引き

改正フロン法対応（フロン類の漏えい点検）

冷凍冷蔵ショーケース 業務用冷凍冷蔵庫編



目次

I. すべての機器ユーザーの皆様へ

- 1. 背景 2
- 2. 「簡易点検」について 2
- 3. 手引きの内容 3
- 4. ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫例 4
- 5. 別置型と一体（内蔵）型との違い 5

II. 簡易点検（漏えいチェック）の方法

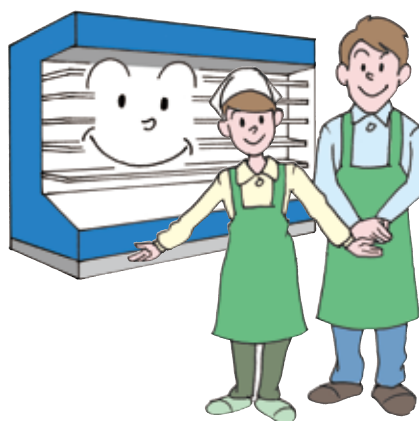
- 1. 冷凍冷蔵ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫 6
 - (1) 室内機の点検 7
 - (2) 室外機の点検 11
 - (3) 業務用冷凍冷蔵庫の点検 14
- 2. 冷凍冷蔵倉庫 16

III. 設備の維持管理のために

- 1. ハニカムの清掃 18
- 2. ショーケース床の清掃 19
- 3. 一体（内蔵）型ショーケースの清掃 20
- 4. 一体（内蔵）型業務用冷凍冷蔵庫の清掃 21

IV. チェックシート

- 1. ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫 22
- 2. 冷凍冷蔵倉庫 23



●改正フロン法における「管理者」と「機器ユーザー」の関係

改正フロン法において、業務用冷凍空調機器の管理責任を有する者を「管理者」として、これらの機器について定期的な点検や冷媒の漏えい時における修理などを行うことを求める「管理者の判断の基準」を定め、本手引きでは「管理者の判断の基準」に定められる「簡易定期点検（簡易点検）」の具体的な方法について紹介します。機器の「管理者」は、機器を所有する方やビルのオーナーなど、事業形態によって様々なケースがあり、「管理者」と「機器ユーザー」が同一でない場合もありますが、本手引きにおいては機器を実際に使用している「機器ユーザー」の方々が日常的な管理としてどのような点検を行えばいいか分かりやすく説明します。制度の詳細については、その他のパンフレットなどをご参照ください。

I すべての機器ユーザーの皆様へ

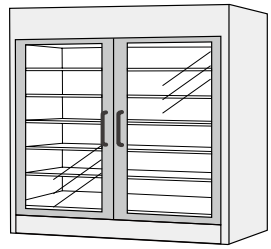
1. 背景

業務用冷凍空調機器に使用されている「冷媒」の多くはフロンガスですが、現在使用されているフロン類の多くは、代替フロンと言って、「オゾン層を破壊しない」ものに転換されています。

しかし、その代替フロンは、大気に放出するとCO₂の数千倍もの「地球温暖化」に与える影響が大きく、排出削減が喫緊の課題となっています。

そこで、平成25年6月12日、「フロン回収破壊法」が改正されました。この改正では、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」(略称:改正フロン法)と名称を変更し、『できるだけフロン類を使用しない製品を製造し、使用しよう』、『フロン類を使用している製品については、排出をしないようきちっと管理をしよう』ということになりました。

この改正フロン法では、フロン類の製造から廃棄までの「ライフサイクル」全体を見据えた包括的な対策が盛り込まれており、フロン類を製造する「フロンメーカー」、フロン類を使用する冷凍空調機器を製造する「機器メーカー」、そして、フロン類が使用されている業務用冷凍空調機器を使用している「機器ユーザー」に、国が「判断の基準」を定め、各当事者にその遵守を求めるものとなっています。



2. 「簡易点検」について

管理者の「判断の基準」では、全ての機器ユーザーに対して、使用する全ての業務用冷凍空調機器について日常に行う「簡易点検」を**四半期に1回以上**行うよう定めています。この「日常点検(簡易点検)」は、機器ユーザーが自ら実施することが求められています(専門業者に依頼してもよい)。

また、以下のとおり、一定規模(7.5kW)以上の機器について、専門業者などの十分な知見を有する者による「定期点検」も定められています。

点検を行う前に、まず自社にある業務用冷凍空調機器について、どのような機器を使用しているか確認しましょう。

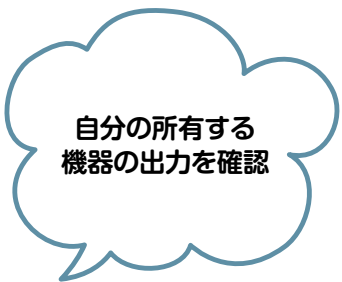
●簡易点検

機種	点検頻度
全ての業務用冷凍空調機器	四半期に1回以上

●定期点検

機種	圧縮機電動機定格出力*	点検頻度
エアコン	7.5kW以上50kW未満	3年に1回以上
	50kW以上	1年に1回以上
冷凍・冷蔵機器	7.5kW以上	1年に1回以上

※ その他、エンジンを用いて圧縮機を動作させるGHP(ガスヒートポンプ)などの製品も対象となりますので、機器メーカーや専門業者に確認してください。



機器の大きさを確認

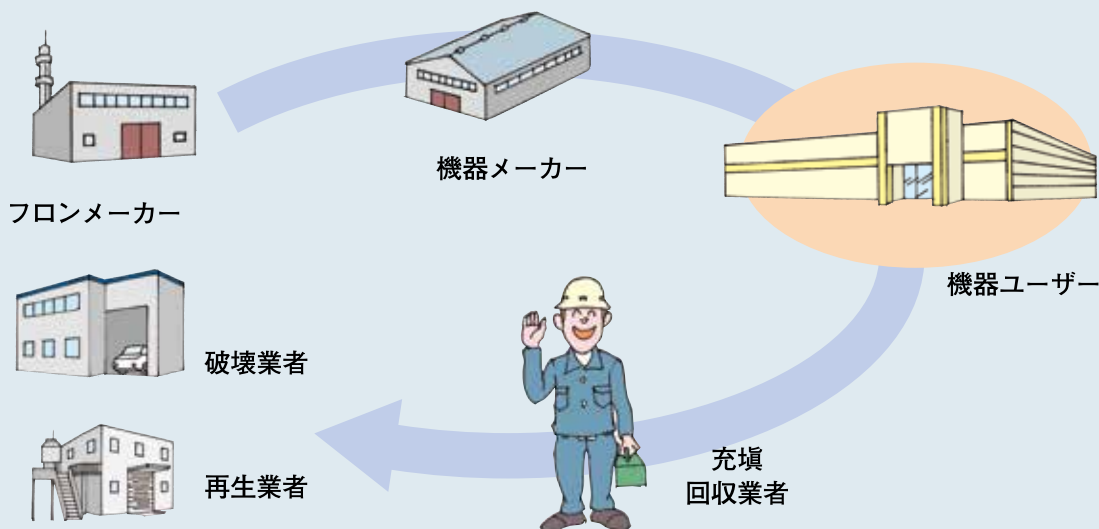


「機器ユーザー」が、「簡易点検」を実施するにあたっては、基本的に「**目視による外観点検**」を実施することになります。

この手引きは、そうした機器の構造などに知識のない機器ユーザーであっても理解しやすく工夫したものとなっており、改正フロン法で求められている「簡易点検」を行う上でのポイントを紹介しています。

もちろん、「簡易点検」を実施するにあたり、当初は、設備業者、保守・メンテナンス業者などの専門業者によるアドバイスを受けながら実施されることが望ましいです。

フロンライフサイクル



※それぞれの当事者に、法・政省令・告示等で遵守事項が定められている。

3. 手引きの内容

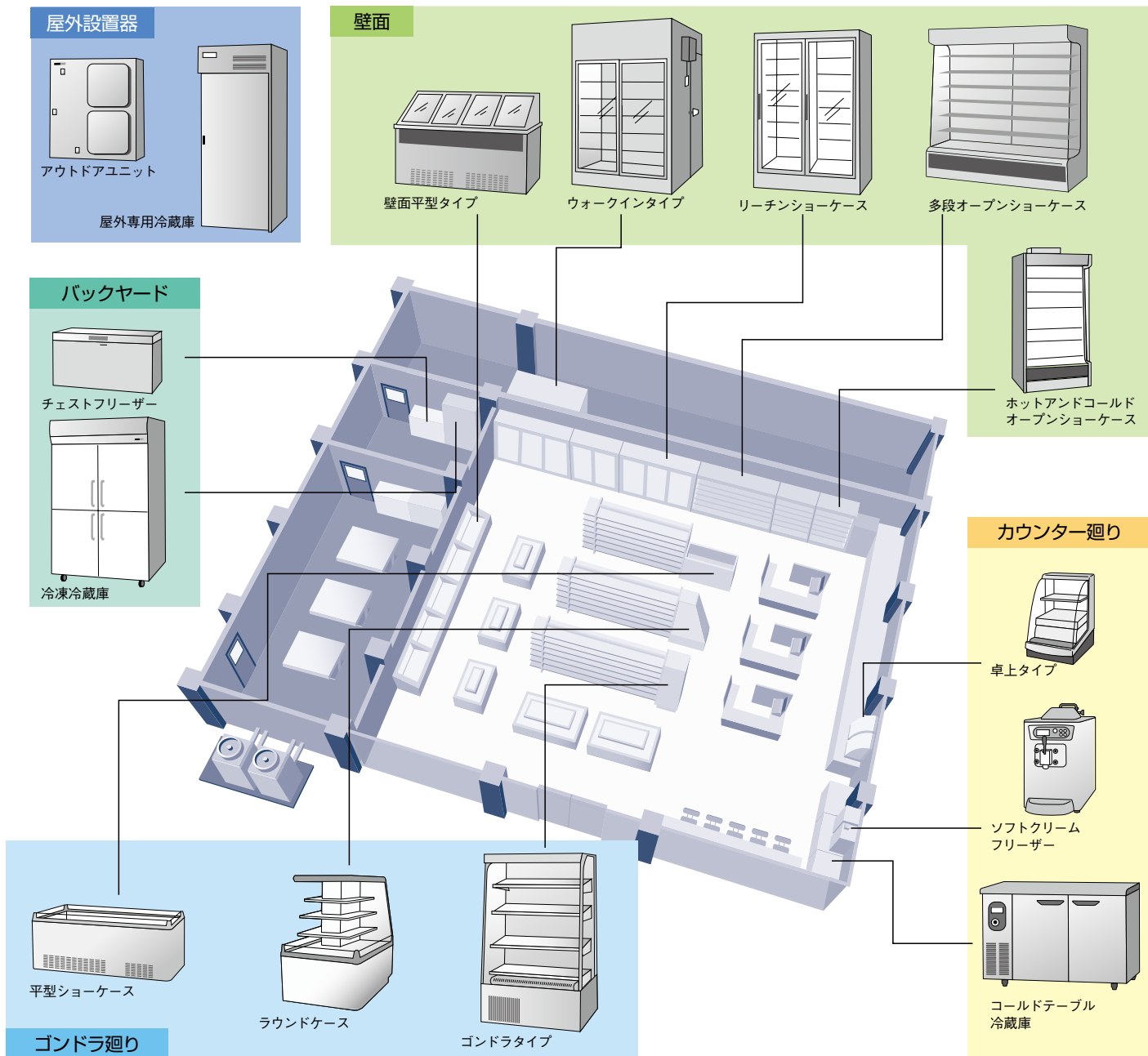
この手引きは、機器ユーザーの方々による日常的に実施する「漏えい防止」のための「簡易点検の方法」を記載しており、フロン類漏えいの「早期発見」を行い、少しでも「地球温暖化防止」に寄与することを目的としています。「Ⅱ」以降に、「簡易点検」の方法について、具体的に示していきます。

注意

- 機器ユーザーの皆様にご実施していただく「簡易点検」は、原則「目視」による点検であり、「安全で容易に目視ができる場合」に限定しております。安全や機器の維持が確保できない場合は、専門業者による点検を実施していただくことになります。
- また、この手引きに記載している点検頻度は、「推奨」頻度であり、必ずしもその範囲で実施していただく必要はありませんが、フロンの「漏えい」や機器の「異常」をより早期に発見するためには、有効な頻度です。点検は、各店舗、事業所の使用状況、使用環境に合った頻度で実施してください。機器メーカーや専門業者と相談しながら実施することが望ましいです。

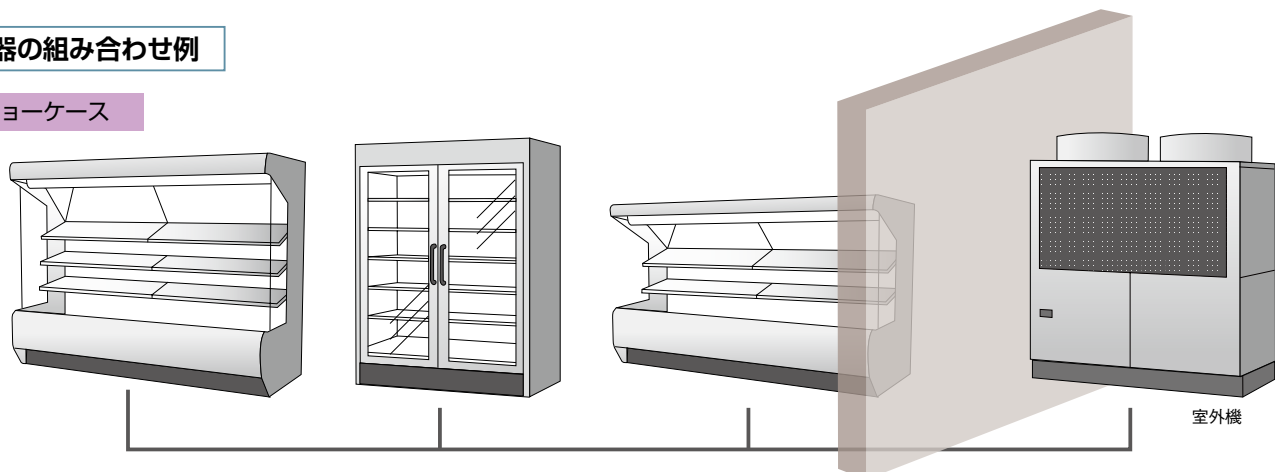
4. ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫例

一般的な店舗（スーパーやコンビニ）のレイアウト



機器の組み合わせ例

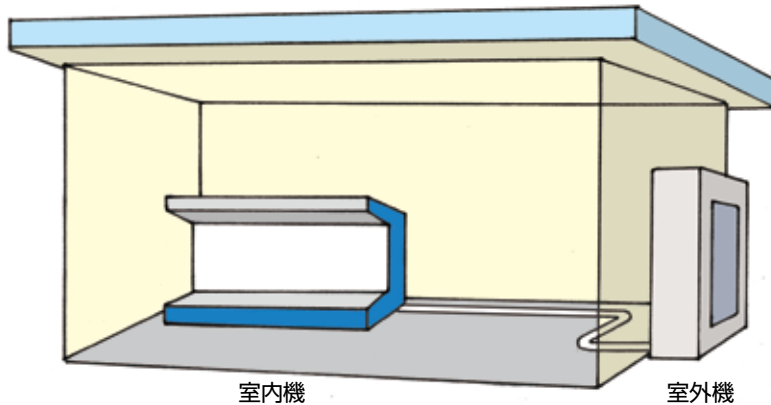
ショーケース



5. 別置型と一体（内蔵）型との違い

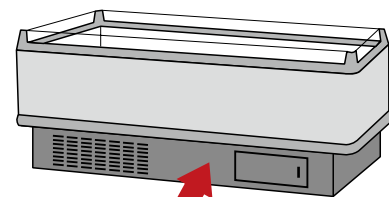
冷凍機別置型

- ・ショーケースと室外機（冷凍機）が配管でつながり、別々に設置されています。（室外機は、外に設置しているケースが多い）



冷凍機内蔵型

- ・ショーケースの中に冷凍機を内蔵している機器です。
- ・コンセントをつなぐだけで使用できるものです。



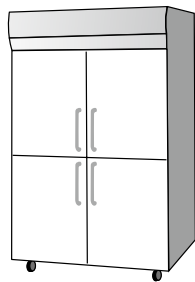
ショーケース下のプレートを外すと、フィルターや熱交換器が見られます。

Ⅱ 簡易点検（漏えいチェック）の方法

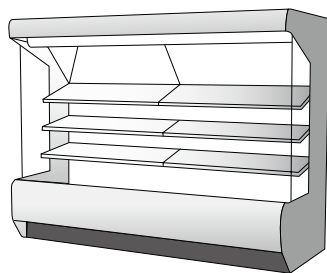
1. 冷凍冷蔵ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫

点検項目		推奨点検頻度	頁
室内機点検	・ショーケースや業務用冷凍冷蔵庫内の温度	2回／日以上	7
	・ショーケース内部の熱交換器の霜付きの有無 (安全で容易に点検できる場合)	1回／日以上	8
	・ショーケース内部の熱交換器や配管の油のにじみの有無 (安全で容易に点検できる場合)		9
	・ショーケース周辺の油のにじみ (安全で容易に目視点検ができる場合)		10
室外機点検	・機器の異常振動・異常運転音 (安全で容易に点検ができる場合)	1回／日以上	11
	・機器及び室外機周辺の油のにじみ (安全で容易に目視ができる場合)		12
	・室外機のキズの有無、熱交換器の腐食、錆など (安全で容易に目視ができる場合)		13
業務用冷凍冷蔵庫	・熱交換器(凝縮器・冷却器)の霜付き、油のにじみの有無(室内機) (安全で容易に目視ができる場合)	1回／日以上	14
	・冷凍機周りの油のにじみ、異常振動、異常運転音(室外機) (安全で容易に目視ができる場合)		15

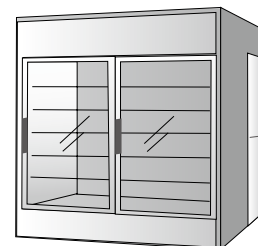
スーパーマーケットやコンビニエンスストアには、さまざまなショーケースや冷凍冷蔵庫があります。



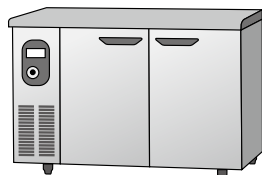
業務用冷凍冷蔵庫



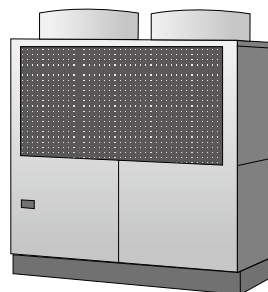
ショーケース



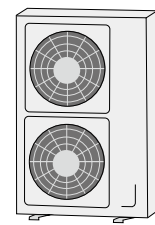
ショーケース



業務用冷凍冷蔵庫



室外機



室外機

●点検頻度について

機器の異常を早期に発見するためには、日頃からの点検が必要です。「判断の基準」では必要最低限の頻度として四半期に一度以上の点検を求めています。この手引きでは「推奨点検頻度」としてそれぞれの頻度を記載しています。簡易点検を行うために推奨点検頻度で専門業者による点検を依頼する必要はありません。機器の使用状況などにあつた頻度で簡易点検を行っていただき、必要に応じて専門業者に点検を依頼してください。

(1) 室内機の点検

① ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫内の温度

ショーケース内の温度を確認し、記録します。機器に貼られたチェックシートに指定された温度範囲が明記してありますので、その範囲でない場合が続くようであれば、専門業者に連絡してください。



ショーケースの例



ショーケースの例



ウォークイン冷凍冷蔵庫



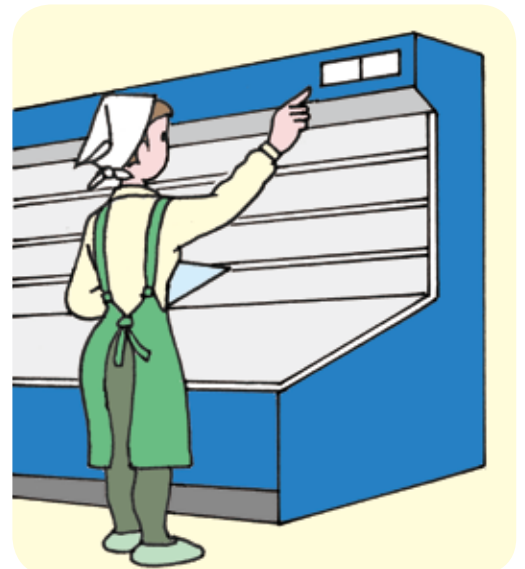
業務用冷凍冷蔵庫の例

注意

- 温度を確認する時間は、決まった時間に実施してください。特に温度の安定している早朝は有効です。
- 自動霜取り時間（デフロスト）が設定されていますので、温度を確認する場合は、その時間を避けてください。

ポイント

- ショーケース内の設定温度は、中に入っている商品の種類によって異なります。
- 冷凍機を内蔵している一体（内蔵）型の機器については、いつもと違う振動・運転音がしないかも確認してください。
- 決まった時間に測定している温度が少しずつ上昇している場合はフロンが漏れている可能性があり、注意が必要です。



② ショーケース内部の熱交換器の霜付きの有無 (安全で容易に目視点検できる場合)

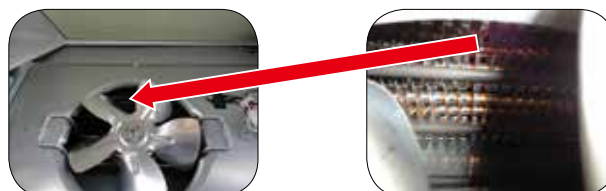
ショーケースの底板をはずし、ファンの隙間などから中が見られる場合は、その内部が白く、霜が付いているかどうか確認してください。霜が付着している場合は、排水管のつまりも考えられるため、排水がたまっていないか確認してください。排水がたまっていれば、排水管を洗浄してください。(もしくは、専門業者に連絡してください)

洗浄しても霜が付着している場合は、専門業者に連絡してください。

熱交換器がショーケースの下になく、背面にある場合は、点検窓から見えるものもありますので、霜付き状況を確認してください。



ショーケースの床板をはずします。



ファンの隙間から熱交換器の霜付き確認



点検窓



点検窓



一体 (内蔵) 型



霜付き

注意

- 熱交換器がショーケースの背面にあり、見えない場合は、専門業者に点検を依頼してください。

ポイント

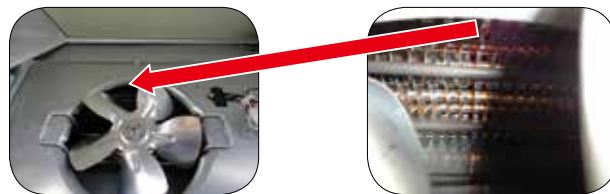
- 熱交換器が背面にあるタイプは、点検窓が付いている場合もあり、そこから目視できます。

③ ショーケース内部の熱交換器や配管の油のにじみ、腐食などの有無 (安全で容易に目視点検できる場合)

ショーケースの底板を外し、ファンの際間などから中が容易に見られる場合は、熱交換器に油のにじみや腐食・錆がないかどうか確認してください。油のにじみなどが見られる場合は、すぐに専門業者に連絡してください。



床板を外します



ファンの際間から熱交換器の油のにじみ確認



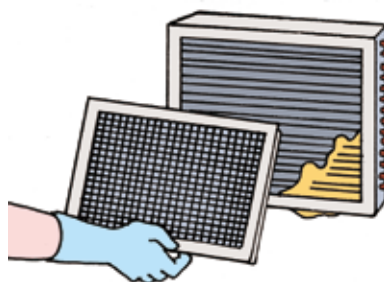
油のにじみ



油のにじみ



一体 (内蔵) 型



注意

- 熱交換器がショーケースの背面にあり、見えない場合は、専門業者に点検を依頼してください。

④ ショーケース周辺の油のにじみ (安全で容易に目視点検できる場合)

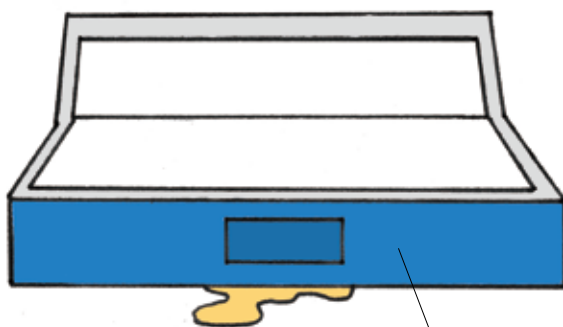
ショーケース周辺に油のにじみがないか確認してください。
油のにじみがあった場合は、すぐに専門業者に連絡してください。



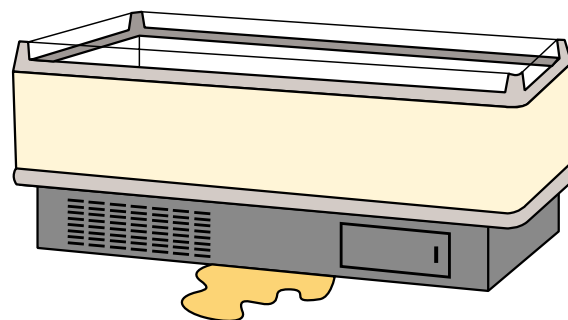
ショーケース (別置型)



ショーケース (一体型)



キックプレート



注意

- 別置型の場合は、ショーケース下のプレート (キックプレート) は外さないでください。
- 必要な場合は、専門業者に連絡してください。

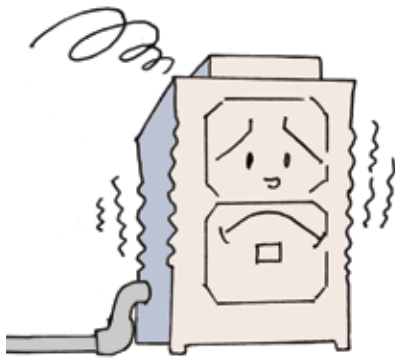
(2) 室外機の点検

① 室外機の異常振動・異常運転音 (安全で容易に目視点検できる場合)

室外機の振動や運転音がいつもと違うかどうか確認してください。
いつもと違う場合は、専門業者に連絡してください。



室外機



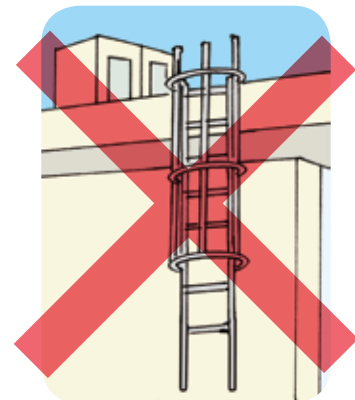
室外機が異常振動している



室外機から異常音がしている

注意

- 室外機が容易に見られる場合は点検してください。
- 防護柵のない屋上などにある場合は、危険ですので専門業者に点検を依頼してください。



ポイント

- いつもと違う振動や音を早期に発見するには、日常の正常な振動や音を把握する必要があります。そのため、日頃から点検することをお勧めします。

② 機器及び室外機周辺の油のにじみ (安全で容易に目視点検できる場合)

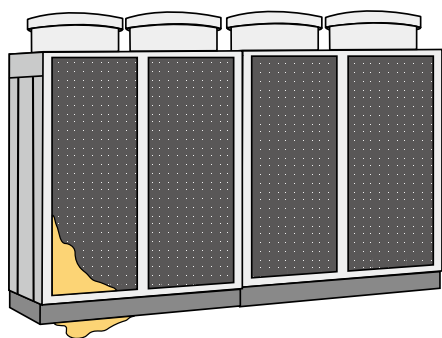
室外機の外観や熱交換器に油のにじみがないかどうか確認してください。
また、室外機の下など周辺にも油のにじみがないかどうか確認してください。
油のにじみを発見した時は、専門業者に連絡してください。



室外機



熱交換器の油のにじみ



注意

- 室外機が容易に見られる場合は点検してください。
- 防護柵のない屋上などにある場合は、危険ですので専門業者に点検を依頼してください。



ポイント

- 室外機が設置してある周辺はいつもきれいにしておいてください。
(油のにじみ等を見やすくするため)
- 室外機の周辺に物を置くと通風が悪くなり、異常停止する場合がありますので、物を置かないでください。
- 室外機の配管接続部分の周辺や底部の油のにじみに注意してください。

③ 室外機のカズの有無、熱交換器の腐食、錆など (安全で容易に目視点検できる場合)

室外機の外観にカズや錆がないか確認してください。

室外機の内部にある熱交換器に腐食や錆、ゴミの付着がないかどうか確認してください。腐食や錆などを発見した場合は、専門業者に連絡してください。



室外機のカズ



腐食



室外機に付着したゴミ



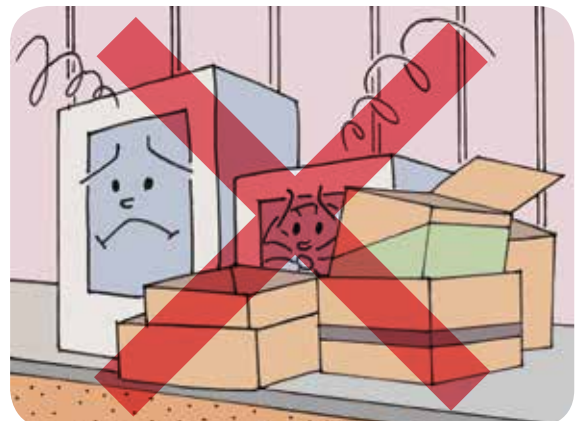
草で覆われた室外機

注意

- 室外機が容易に見られる場合は点検してください。
- 室外機のカバー（外板）のネジをはずさないで、熱交換器が見られない場合は、専門業者に点検を依頼してください。

ポイント

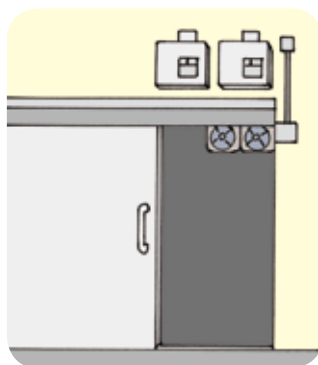
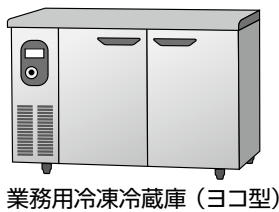
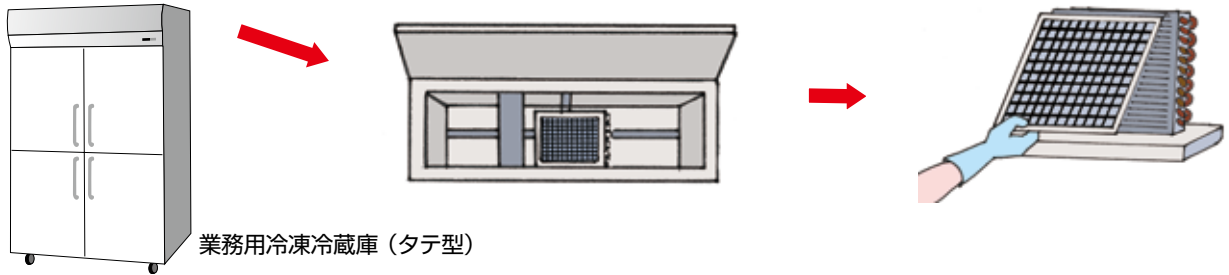
- 室外機にゴミが付着していたり、草がからまったりしていたら、取り除きましょう。カズや腐食などを早期に発見できます。
- 室外機に散水しているような場合は、腐食に注意しましょう。
- 室外機の周辺に物を置くと通風が悪くなり、異常停止する場合がありますので、物を置かないでください。



(3) 業務用冷凍冷蔵庫の点検

① 熱交換器（凝縮器・冷却器）の霜付き、油のにじみの有無（室内機）（安全で容易に目視点検出来る場合）

業務用冷凍冷蔵庫の内部の冷却器（室内機）に霜や氷が付いていないか確認してください。
業務用冷凍冷蔵庫には、小型のものから人が入れるくらいのものであります。



注意

- 脚立を使用する場合は、床が滑りやすくなっているため、注意してください。

ポイント

- 霜や氷を落とす際、棒やハンマー、ドライバー等で叩いたり、無理矢理除去すると、冷却器や熱交換器などを傷つける場合があるため、専門業者に連絡してください。



②冷凍機周りの油のにじみ、異常振動、異常運転音（室外機） （安全で容易に目視点検ができる場合）

室外機の点検については、ショーケースの点検と同じように実施してください。

また、機械室が別にあり、その中に冷凍機本体があります。その冷凍機周辺に、油のにじみがないか、いつもと違う振動や運転音がしないかを確認してください。



冷凍機械室



機械室内部にある冷凍機



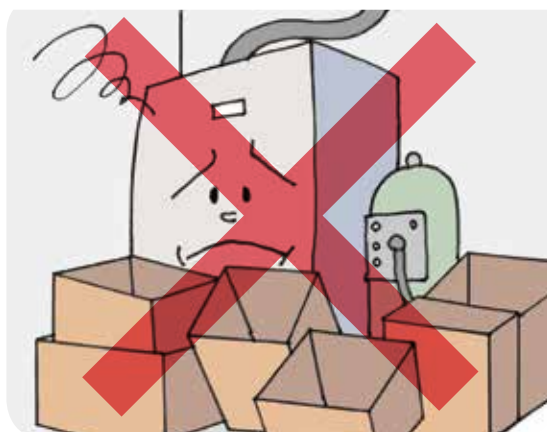
圧力検知配管に油がにじんでいる例

注意

- 機械室は施錠して関係者以外立入禁止とし、責任者のみが入り出ることができるようにしましょう。

ポイント

- 機械室内は、きれいにしておきましょう。
- 機械の周辺には物を置かないようにしましょう。



2. 冷凍冷蔵倉庫

冷凍冷蔵倉庫を運営しているような大きな設備には、専門の技術者が運転していることが多いため、ここでは、点検項目のみを掲載します。

点検項目		推奨点検頻度
冷凍冷蔵庫内温度の記録		3回／日以上※
冷凍機本体点検	・高圧・低圧・油圧・油面・電流・電圧の記録	3回／日以上※ (最低1回／日)
	・冷却水出入口温度(水冷式)	
	・機器周辺の油のにじみ(冷凍機本体、空冷室外機外観、配管)	
冷凍機周囲点検	・受液器の液面計の冷媒液面は標準レベルになっているか	1回／日以上
	・機器の異常振動・異常運転音、冷凍機の異常発停 (安全で容易に目視が出来る場合)	
冷凍冷蔵庫内点検	・冷蔵倉庫内冷却器の霜付き、油のにじみの有無 (安全で容易に目視が出来る場合)	1回／日以上

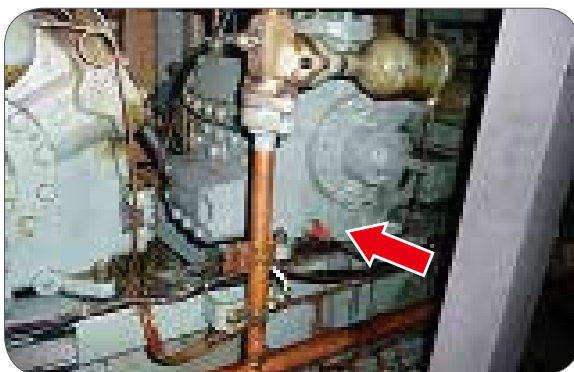
※ (一社)日本冷蔵倉庫協作成：冷凍設備の管理基準より



冷凍機異常振動・異常運転音
異常発停止、各圧力・電流・電圧記録



冷凍機本体配管部の油のにじみの確認



圧縮機周辺の油のにじみ状況



開放型冷凍機異常振動、異常運転音の確認



ユニット型冷凍機の異常振動確認



受液器液面計の液面位置



冷蔵庫内正常な冷却器外観



冷却器の内部霜付き異常



冷却水入口温度計確認



冷却水出口温度計確認

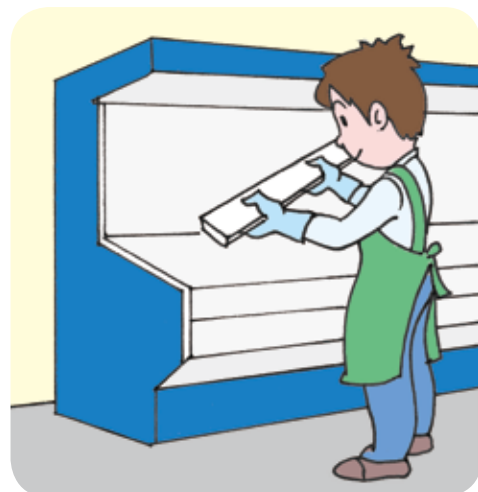
Ⅲ 設備の維持管理のために（日常のお手入れ）

1. ハニカムの清掃

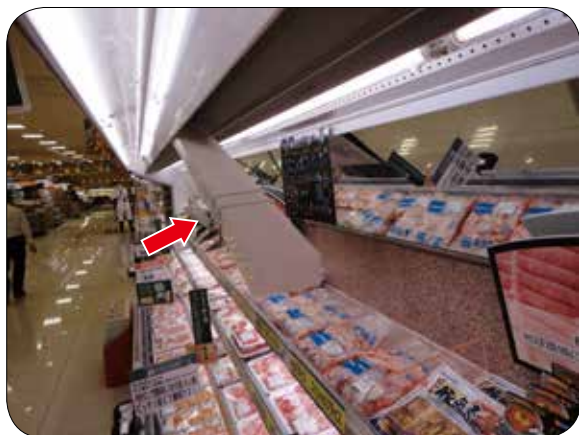
ハニカムは、ショーケース内の冷気を整流し、エアカーテンを作る働きをします。

ハニカムに綿ぼこりなどで目詰りすると、冷気が流れず、冷えなくなり、その分、電気の使用量も増加します。

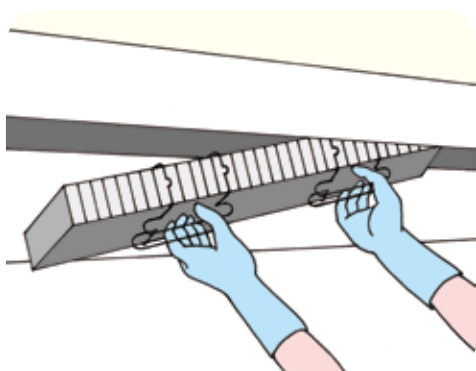
また、ショーケースの天井に水滴がたまりやすくなり、商品に影響を及ぼす可能性がありますので、こまめに清掃をしましょう。



ハニカムは、ショーケースの冷気を吹き出す部分にあります。



ハニカムは、クリップをつまんで引き出します。

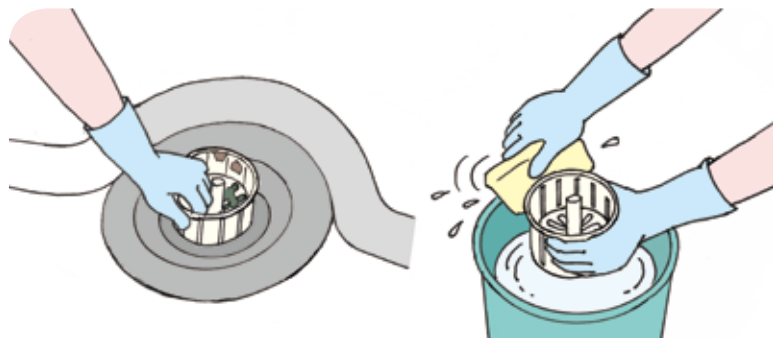


2. ショーケースの床の清掃（排水口のつまりを確認）

ショーケースの床板の清掃をします。

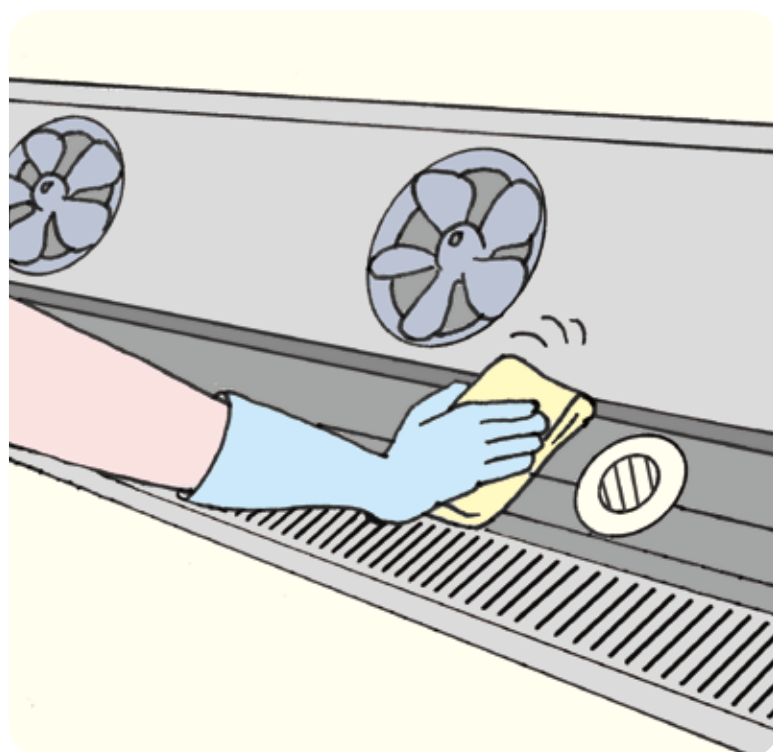
ショーケース内部の霜付きや油のにじみを確認する際、排水口（ドレン）が詰まっていたり、その周辺が汚れている場合は、清掃してください。

排水口にゴミがたまっていたら、取り除いてください。



床が汚れていたら、清掃してください。

清掃する場合は、「ファン」を止めて行ってください。



3. 一体（内蔵）型ショーケースの清掃

一体型（内蔵型）ショーケースは、ショーケースの下に熱交換器があり、パネルをはずしフィルターを清掃することができます。



パネルは簡単にはずれます。

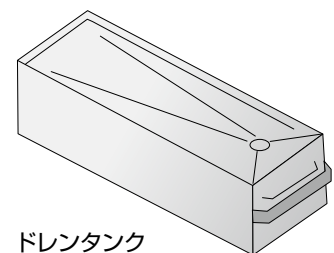
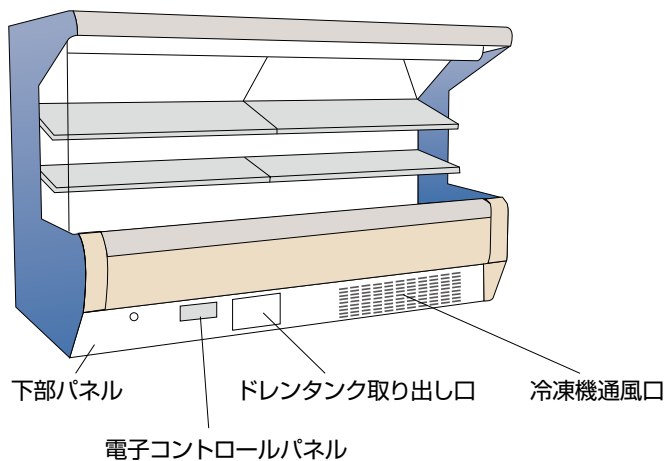


フィルターを外し、



水洗いをしてください。

ドレンタンクがあるものは、タンクにたまった水を捨ててください。

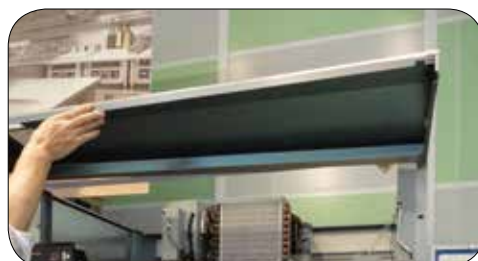
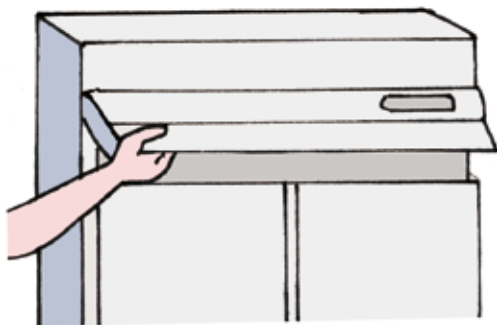


ドレンタンク
(1日1回、中の水を捨てましょう)

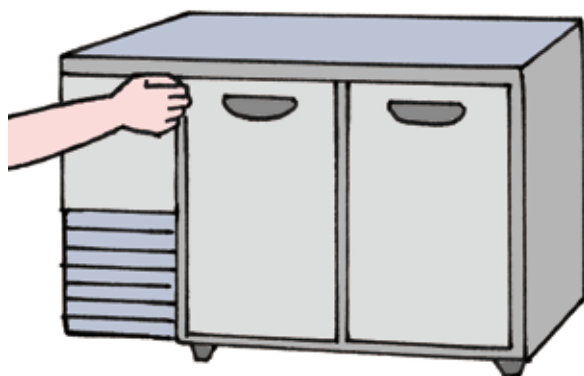
4. 一体（内蔵）型業務用冷凍冷蔵庫の清掃

フィルターを外し、水洗いをしてください。

縦型の冷蔵庫は、熱交換器は概ね上部にあります。



横型の冷蔵庫は、熱交換器は概ね横にあります。



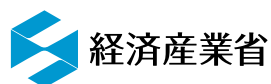
フィルター

2. 冷凍冷蔵倉庫

お客様用機器点検表
 <冷凍冷蔵倉庫>

異常時の連絡先

点検項目	推奨 点検頻度	年	
		月	日
1 庫内温度の記録	3回/日以上		
①高圧の記録			
②低圧の記録			
③油圧の記録			
2	3回/日以上		
④油面の記録			
⑤電流の記録			
⑥漏圧の記録			
3 冷却水出入口温度 (水冷式)	3回/日以上		
4 機器潤滑油の油のしじみ (冷凍機本体、空冷室外機外観、配管)	3回/日以上		
5 受液器液面計の冷凍液面は標準レベルになっているか	1回/日以上		
6 機器の異常振動・異常運転音、冷凍機の異常発停 (安全で容易に目視が出来る場合)	3回/日以上		
7 冷凍冷蔵庫内冷卻器の霜付き、油のしじみの有無 (安全で容易に目視が出来る場合)	1回/日以上		
8 気付き事項			



経済産業省



環境省



一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会

業務用冷凍空調機器ユーザーによる
簡易点検の手引き

改正フロン法対応（フロン類の漏えい点検）
（冷凍冷蔵ショーケース・業務用冷凍冷蔵庫編）

平成26年度経済産業省委託事業
2014年10月10日 第1版発行

編集発行

一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会
JARAC

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3F
TEL:03-3435-9411 FAX:03-3435-9413
URL:<http://www.jarac.or.jp> e-mail:info@jarac.or.jp

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。